

要 約

No. 1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	浅川 翔子
主 論 文 題 名 :				
外国人患者対応における救急外来看護師の看護実践の障壁に関する研究				
(内容の要旨)				
【背景と目的】				
国際化が進む中、救急外来へ受診する外国人患者数の増加が見込まれる。外国人患者と医療者との間に文化的・言語的差異が生じた場合、安全な医療を受けられない可能性があるため、外国人患者対応における救急外来の看護実践能力の向上が不可欠である。先行研究では、看護師あるいは患者の体験に基づく、言語や文化の相違による個の課題として説明されてきたが、救急看護という枠組みやシステムの中で文脈化されておらず、救急医療に携わる看護師の個人要因や環境要因を含む救急看護における構造的要因の観点からは、未だ説明されていない。救急外来で勤務する看護師の外国人患者対応における看護実践上の障壁と、その障壁を伴う看護実践が外国人患者へ与える影響を、救急外来という特徴を踏まえた構造的要因の観点から明らかにすることである。研究目的の達成のため、本論文では2つの研究に取り組んだ。				
【研究1：救急外来へ来院したウォークイン外国人患者への看護実践に関する救急外来看護師の体験】				
救急外来看護師は、外国人患者対応において言語や文化の違いにより対応に関する困難を感じている。しかし、救急外来の環境や診療の特徴や、看護師の認識・信念の影響を受ける実際の救急外来の現場において、看護実践上の障壁がどのようなものであるかは十分に明らかにされていない。救急外来看護師が体験する、ウォークイン外国人患者への対応における看護実践上の困難は、どのような障壁によるものかを明らかにすることを目的として、質的研究を実施した。救急外来看護師15名（3名×5グループ）のオンライン・フォーカスグループインタビューを実施し、救急外来看護師のウォークイン外国人患者対応における看護実践上の課題について理論的飽和に達した。再帰的テーマ分析を用いて分析した結果、の4つのテーマ（《 》で示す）と10のサブテーマ（〈 〉で示す）が抽出された。それぞれ、《1. 曖昧さを伴う関わりへの躊躇》〈不確実性の高い対象への躊躇〉〈異文化接触への戸惑い〉、《2. 診療の調和の喪失》〈労力の不均衡が阻む診療〉〈迅速な緊急度判断の欠如〉〈ケアにおける円滑性の欠如〉、《3. 難渋する治療目標の共有化》〈治療における共通理解の不透明感〉〈迅速に得られない患者の納得感〉、《4. 自己効力感の減退》〈自信を欠いた自律的实践〉〈十分に得られない手応え〉〈安楽を提供できない				

無力感)であった。救急外来看護師は、十分な臨床経験があるにもかかわらず、外国人患者へは迅速に、また自律的に行動できず、これまで培ってきた実践能力を発揮できないという状況から自身の看護に対する価値や信念が揺らぎ、葛藤を感じ自信を失っていた。多様な背景を持つ患者を24時間受け入れる不確実性の高い救急外来において、迅速な患者対応と看護実践の自律性が高まる支援が、看護師へ必要であると示唆された。

【研究2：救急外来における看護実践に関するウォークイン外国人患者の体験】

研究2では、救急外来受診経験のある外国人が、受診時に看護師より受けた看護実践に対する受け止めを明らかにすることを目的として質的研究を実施した。日本の救急外来へ受診経験のある対象者15名のオンラインインタビューを実施し、外国人患者が受けた救急外来看護師による看護実践の様相について理論的飽和に達した。再帰的テーマ分析を用いて分析した結果、の4つのテーマ(《》で示す)と9のサブテーマ(〈〉で示す)が抽出された。それぞれ、《1. 異文化の摩擦》〈受容できない異なる医療文化〉〈考慮されない慣習の相違〉、《2. 医療者中心のケア》〈不十分な情報提供〉〈一方的な看護ケア〉、《3. 異文化への関わりへの躊躇》〈看護師による異文化接触への戸惑い〉〈マイノリティであることへの患者の気後れ〉、《4. 言語を越えたつながりの構築》〈寄り添いを感じる看護師の関わり〉〈高い専門性に基づく信頼〉〈患者の円滑なコミュニケーションの試み〉であった。結果より、看護師に内在する障壁、そして救急外来の環境や、ウォークイン外国人患者との協働といった、看護師が受ける外的な影響による障壁が減少するような支援が必要であるという示唆が得られた。

4. 総括

研究1(第2章)と研究2(第3章)より、外国人患者への対応において、救急外来看護師には、看護師自身に内在する内的な障壁と、救急診療の特徴的な環境や外国人患者との協働といった、環境や対人関係との外的な相互作用によって生じる障壁が生じていることが明らかとなった。内在する障壁は、異言語や異文化に対する予測できない患者の反応への恐れ、固定観念、看護実践への自信の喪失など、看護師に内在し、心理的および物理的に距離を取ろうとする看護師の態度へ影響する。外的な要因による障壁は、多様な背景や医療ニーズを持つ不確実性の高い患者や、緊急性が高く迅速性が求められる医療現場などの救急診療の環境と、治療遂行や治療決定における協働性の欠如、対人コミュニケーションの円滑性の欠如など、看護師と外国人患者との相互的な関わりにより生じる。これらの障壁は、患者中心の医療の欠如や治療効果的側面における安全性の欠如とともに、救急診療の迅速性を損なう可能性が示唆された。また、外国人患者の視点を通して、緊急性が高い状況において、患者の意思決定を尊重し支援する姿勢が医療者に欠如していることも明らかになった。救急外来看護師と外国人患者の双方の自律性が高まり、協働性が高まるよう、内的な障壁と外的な要因による障壁の両方へのアプローチが必要である事が示唆された。